

仕様書

1. 件名 分子神経プログラム居室 入退管理システム設置

2. 目的 現在、分子神経プログラムの在籍数は外部研究員も含め50名を超える。
研究の為、各職員は早朝から深夜まで居室におり、会議、実験等で一時的に居室が不在になる事もある為、セキュリティ一面も考慮した入退室に関する新たな仕組みを構築する必要がある。
放射線医学総合研究所（以下「放医研」という）でエンコードした非接触式のICカード（マイフェア規格カード）を用いて出入管理を行うことにより、夜間並びに休日の入室許可者を制限し、情報漏洩等を防ぐことを目的とする。

3. 数量 1式

4. 設置場所 探索研究棟3階 分子神経イメージング研究グループ研究室 (N-301)

5. 納入期限 平成24年 3月 29日

6. 構成及び規格

構成は以下の通り

(1) 出入管理装置 ゲート数 2か所 カードリーダー4台および制御装置

(2) 管理用、閲覧用ソフトウェア 1式

本ソフトウェアは当所支給のパソコン(Windows7)にインストールすることとする。

(3) 付帯工事

7. 仕様

出入管理装置は、カード読み取り装置と制御装置、及び電気錠で構成される。なお、カード読み取り装置と制御装置は別々の機器でも一体型でも良い。

(1) カード読み取り装置および制御装置

- ① カードは研究所がエンコードした非接触式 IC カード（マイフェア規格 (ISO14443 Type A) 準拠）とし、研究所が指定する特定セクターのデータが読み取れること。
- ② カード読み取り部から 2 cm ～ 5 cm 内の距離でカードデータが読み取れること。
- ③ IC カードをカードリーダーに読み込ませてから解錠あるいは自動扉の開動作までの時間は 1 秒以内であること。
- ④ カードデータ読み取り後、解錠の可否について異なるアラームにて警報が鳴ること等により、利用者が確認できること。また、解錠の可否について、LED 等を用いて異なる色を発光する等により目視にて利用者が確認できること。
- ⑤ 扉開状態後、任意の時間を経過しても閉め忘れ等により閉状態にならない場合、警

報が鳴ると共に管理用コンピュータにその状態を警告出来ること。

- ⑥ カードリーダーは放医研が指定するゲート近傍の操作性を考慮した位置に IN/OUT 各 1 台ずつ取り付けること。取り付けに際し既存建屋の壁面等にアンカーボルト等により固定し、落下等が生じない様に処置すること。また、ケーブルはモール又は埋め込み等により処理を行うこと。
- ⑦ 非常時に手で電気錠の解錠ができるようにすること。
- ⑧ カードリーダーの寸法は設置場所のスペースを考慮し、80 mm (W) × 120 mm (H) × 30 mm (D) 以内とする。
- ⑨ 制御装置は 1,000 件以上の利用者（カード）の使用が可能なこと。
- ⑩ ゲート毎に入室許可制限の設定ができること。
- ⑪ カード読み取り装置が読み取ったカードデータにより、認証を行い扉の解錠を行うこと。
- ⑫ 管理用パソコン（当所支給品）から制御装置のコントロールができること。
- ⑬ 管理用パソコンが何らかの理由により動作不能又は制御装置との通信が不能となった場合、制御装置が単独で各ゲートのカード読み取り装置を制御し、解錠、施錠ができること。
- ⑭ 管理用パソコン未接続時及び同パソコンが何らかの理由により動作不能に陥った場合においても、制御装置が単独で各ゲートのカードリーダーを制御し、解錠、施錠が出来ること。
- ⑮ 上記トラブルが解消した場合制御装置から動作不能時間帯における各ゲートのデータを管理用パソコンに通信し、同パソコンで読み取ることが可能なこと。
- ⑯ 停電時においても制御装置のメモリー上の情報（利用者登録情報、出入履歴情報等）が消えないようにバックアップバッテリー等により、20 分以上対応がとれること。
- ⑰ 停電時に電気錠の解錠または施錠の設定をあらかじめ行うことにより、停電復帰通电後、電気錠が施錠となるような設定ができること。
- ⑱ 管理用パソコンがオフラインであっても、履歴データをゲート毎に 5,000 件以上保持できること。
- ⑲ カード読み取り装置と制御装置が別々の機器の場合、制御装置は壁付けとする。
- ⑳ 制御装置は電源 100V、50Hz で動作すること。
- ㉑ 制御装置は LAN 接続とするが、その場合デフォルトゲートウェイの設定 ができること。

(2) 管理用ソフトウェア

- ① 出入管理に必要な以下の項目ができること。

カードの新規登録（氏名等の利用者情報）

ゲートの追加及び新規登録、ゲート名称の変更、ゲートの削除

ゲート毎の開閉時間帯の設定及び変更

ゲート毎の開閉曜日制御の設定及び変更

ゲート毎の開閉日付制御の設定及び変更

カード毎による入室許可、不許可の制御の設定及び変更

有効期限の設定及び変更

ゲート毎の解錠時間設定及び変更

ゲート毎の連続解錠設定及び変更

全ゲートの一括解錠の遠隔操作
警報ブザーの設定及び変更
出入管理装置の使用権限設定
5,000 件以上のカードが使用可能

- ② 休日（振替休日等を含む）及び任意に登録された日を自動設定し、ゲートごとの開閉日制御に反映できること。
- ③ ゲートの異常時においては警報表示及び音声通知機能を有すること。
- ④ エラー等の表示ができること。
- ⑤ 入退室情報を時系列順にリアルタイムに表示ができること。
- ⑥ 入退室情報は以下の表示ができること。

年月日
入退室時間
カード利用者
同上者所属
カードコード
ゲート名称
入室、退室の別
ゲート毎による上記の表示

- ⑦ 利用者情報（氏名）、入退室情報、のデータを外部メディアにバックアップできること。また、ローカル若しくはネットワークプリンターから印字及び CSV 形式での出力ができること。
- ⑧ ゲートごと、利用者ごとの日報、週報、月報、四半期集計、年次集計及び CSV 形式での出力ができること。データの書き出し及び読み込みは CSV 形式及びテキスト形式で可能なこと。
- ⑨ 表示画面が日本語表記であること。

8. 提出図書

- | | |
|-------------------|----------|
| (1) 工程表 | 2 部 |
| (2) 完成図書 | 2 部（検収時） |
| (3) 取扱説明書 | 1 部（同上） |
| (4) 管理用ソフトウェア | 1 式（同上） |
| (5) その他放医研が指示する書類 | 都度 |

9. その他

- (1) 設置・施工上の注意
 - ⑩ 本件の設置・施工にあたり、事前に工程表を提出し、放医研担当者と調整すること。
 - ⑪ 発生する廃材等は、請負業者が持ち帰り適切に処分すること。
 - ⑫ 本システムに必要な電源は放医研が指定する場所（コンセント又は分電盤）へ接続すること。また、配線の露出部分はモール等で取り付けること。
 - ⑬ 設置工事等により放医研所有物を汚損、破損した場合はその修復に関しては、請負業者の責任において行うものとする。

- ⑭ 既存設備及び備品類の移動・撤去及びその後の調整が必要な場合はその調整、移動、撤去及び移動、撤去後の壁補修等の費用を含むこと。

(2) 初期設定

- ⑮ 初期データは、放医研が所有する既存データベースを開示する。ただし初期データの登録作業は放医研担当者立会の下放医研内で行うこと。
- ⑯ カード情報に関してはセキュリティーの関係上、開示が必要な場合は放医研担当者に申し出ること。
- ⑰ 上記により開示を求める場合は、開示により知り得た情報を守秘する誓約書を放医研に提出し、開示前までに当所の許可を得ること。
- ⑱ 放医研が所持するカードの所外持ち出しは禁止とする。

(3) 保守体制等

本システムに万一不具合が発生した場合のことを考慮し、首都圏において同システムの技術者に対応できるスタッフ又はサービス網が整備されていること。
また、故障時の対応は連絡を受けてから 5 営業日以内に対応すること。

(4) 保証期間

納入後 1 年間は無償保証期間とする。

(5) 協議事項

本仕様書に記載のない事項については放医研担当者と協議の上決定するものとする。

(6) 守秘義務

本件の据え付け・調整・修理・保守等に当たって知り得た、本研究所に関する情報及びデータ等を許可なく外部に漏らしてはならない

(7) 品質保証

セキュリティーシステムの製造元は、ISO9001(品質マネジメントシステム)の認証を取得していること。

10. 特記事項

カードキーが作動しないなどのトラブル時は連絡の上 30 分以内に対応可能な事。
火災などの緊急時は当研究所の職員（当研究所安全・施設部安全計画課、守衛所の担当者等）が開閉でききよう設定が可能な事。

11. 給排水の状況 必要なし

12. 検査 納入完了後、当研究所職員が所定の要件を満たしていることを確認したことをもって検査合格とする。

13. その他 据付調整、動作確認を行うものとする。
本仕様書に記載されている事項及び本仕様書に記載のない事項について疑義が生じた場合は、当研究所担当者と協議のうえ、その決定に従うものとする。

所属部課名	分子イメージング研究センター	
	分子神経イメージング研究プログラム	
	グループリーダー	須原 哲也
	担当者	豊田 裕子